



テレビでいろいろなワクチンのご紹介されていますが、
高齢者に接種をお勧めするワクチンがありますか？

ワクチンって何？

予防接種でワクチンを接種すると、受けた人が病気にかからなくて済んだり、かかってしまっても重症化や後遺症を予防できたりします。また、周囲の人を守る効果もあります。

高齢者はどんなワクチンを接種するのが望ましいですか？

テレビでは、いろいろなワクチンについて報道されています。インフルエンザワクチンと新型コロナウイルスワクチンは身近になってきましたが、意外と知られていないワクチンが肺炎を予防する肺炎球菌ワクチンや帯状疱疹を予防するワクチンです。肺炎球菌ワクチンには23価ワ

クチンと13価ワクチンがあり、肺炎球菌には93種類の血清型があります。

例えば23価ワクチンは、そのうち23種類の血清型に効果があるという意味です。23価ワクチンについては2014年から定期接種となっており、65歳以上の方は、料金の一部が公費でまかなわれます。13価ワクチンはカバーする血清型の種類は少ないですが、小児は定期接種となっており安全性が高く、23価ワクチンと異なったメカニズムとなつています。13価ワクチンは日本では高齢者に対しては任意接種ですが、23価ワクチンと両方接種することによりブースター効果（より強く免疫が誘導される効果）があるとと言われており、海外では両方接種が推奨

されています。具体的な接種スケジュールについては医師に相談してください。また、2022年には15価ワクチンが認可され、今後複数接種が進むと思われま

す。帯状疱疹は80歳までに3分の1の人がかかるといわれ、発疹が治まってからも神経の痛みが継続することがあります。

帯状疱疹の不活化ワクチンは10年後でも80%以上効果が持続すると言われており、2020年からは50歳以上の方が接種可能となりました。新しい不活化ワクチンは従来型の生ワクチンと比較し効果が高く、長く効き、接種に制限のある人が少ないなど多くのメリットがあります。なお、接種は2か月の間隔をおいて2回必要です。

新型コロナウイルスワクチンとの同時接種はできますか？

新型コロナウイルスと同時接種できるのは、インフルエンザワクチンのみです。それ以外のワクチンは、新型コロナウイルスとの同時接種はできず、2週間以上の期間を空ける必要があります。

副反応が心配です

予防接種により、熱が出たり、接種部分が腫れたりするなど副反応が一定数みられます。そのため、接種する利益とリスクのバランスを考慮する必要があります。ワクチンによる副反応を減らすためには体調のよい時に接種することをお勧めします。



【アドバイザー】

長友 真子・ながともひろこ・平成2年福岡大学医学部卒業、産業医科大学呼吸器科、福岡東医療センター、津田内科病院を経て、平成19年6月より鞍手町立病院（現地方独立行政法人くらで病院）勤務。日本呼吸器学会専門医。

肺炎球菌の23価ワクチンは定期接種になっており、任意接種の13価ワクチンと両方接種すると、より効果があります。また、帯状疱疹のワクチンもメリットの多いワクチンです。

